

特集 次期総選挙への思惑交錯……

本命不在で駆け引き 院2区補選

党本部主導 自民不戦敗

収賄罪で在宅起訴された吉川貴盛元農水相の議員辞職に伴う衆院道2区（札幌市東区、北区の一部）の補選は、4月13日の告示まで1カ月を切った。自民党が候補擁立を早々に断念する異例な展開の中、「政治とカネ」批判で勢いづいた野党だが、有力候補である立憲民主党の元職松木謙公氏にも

自民党の不戦敗は党本部が主導した。選対委員長山口泰明が1月中旬、突然、記者会見を開き補選の原因となった吉川の収賄罪に触れ「深い反省に立って有権者の信頼回復を最優先にしたい」と候補擁立の見送りを発表した。「政治とカネ」への反

「カネ」の問題が発覚。これによってスムーズに進むと見られた立憲と共産党の共闘協議が滞っている。半年以内に必ず行われる総選挙をにらんで思惑も交錯し、駆け引きが続いている。

（3月1日現在、文中敬称略）



▲地検の捜査が行われた吉川貴盛事務所 (NHKニュースより)

かねない。そんな読みも働いた。

後継巡って 党内不和が……

だが、候補擁立断念の理由はそれだけではな。地元支部は吉川の辞職を受けて候補者選考に入り、北区選出のベテラン市議高橋克朋（55）の擁立でほぼまとまりかけていた。

野党も足並みに乱れ

一方の野党。立憲民主と共産はともに共闘に向け前向きで、「競争をさせない市民の風」も加えて体制の枠組みづくりは早かった。しかし、その後は、自民党という「共通の敵」がいなくなったことで緩みが出て停滞気味だ。

省とはもつともらしい理屈だが、自民党がそんな殊勝な政党なのか。事実、その舌の根も乾かぬうちに、選挙買収で有罪となり失職した河井案里の参院広島選挙区の再選挙には候補を立てる方針を決めた。勝つ見込みがあれば候補を立て、負けそうだと撤退する。融通無碍さはいかに自民党



▲松木謙公氏



▲平岡大介氏

かねて吉川は後継には長男で札幌市北区



続きは『月刊クオリティ』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)